

ヴォリュームアキュライザーの導入 (19)

—Langevin 6V6pp アンプへの適用—

1. 始めに

今回は、メインシステムの FAL C90EXW を駆動する Langevin 6V6pp アンプのヴォリュームに VRA-7 を適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

今回は、Langevin 6V6pp アンプのヴォリュームに適用してアナログ音源で試聴します。再生経路は前報(2)と同様です。

Langevin 6V6pp アンプのヴォリュームはピン状のもので、VRA-7 をそのまま貼るわけにはいきません。そこでピンの回りに両面テープを巻き付け、VRA-7 のテープを剥がして、ピンの回りの両面テープに押し付けて接着します。

さらに、このアンプのスピーカー駆動用ケーブルは、特有の形状をもったコネクタ一ですので、ここにも VRA-7 を貼ってみました。

下掲の写真は、ヴォリュームピンとそれに VRA-7 を貼った状態です。





下掲の写真は、ケーブルコネクターと VRA-7 を貼った状態です。



再生経路は前報(2)のとおりで、音源は前報(2)で使用したアナログ盤を使用します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フドリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果

今回からパワーアンプへの適用となりますが、一般論としてパワーアンプのヴォリュームはいったんスピーカーの能率などに合わせて設定すると、常時調整するものではありません。このため、ヴォリュームは小型であったり、ピン状やつまみ状であったり、旧型機ではヴォリュームそのものがないものもあります。

今回適用する Langevin 6V6pp アンプのヴォリュームはピン状のもので、上記のような貼り方をしました。果たして、接触面積の小さいことから効果があるのかどうかポイントでしたが、前報(2)とほぼ同じ結果になりました。

Sonatas & Partitas は、ミルシュテインのヴァイオリンの美音はそのままに、音に膨らみと張りが出てきます。

選帝侯のソナタは、アンダのピアノの美音はそのままに、眼前に迫ってきます。

ワルキューレは、弦楽合奏が緻密になって金管も伸び伸びと鳴り、ソプラノやメゾソプラノの声に張り揚げ方が違ってきます。

メサイアは、ハレルヤコーラスの迫力が出て、弦楽合奏の艶が出ますし、シュワルツコップの声の張りが伸びやかになります。

前報(2)との違いはあまりありませんが、全般的に **TruPhase** への適用に比べて、切込みは弱く、穏やかな表情です。

ケーブルコネクタに **VRA-7** を貼った場合は、方向性という点では、ヴォリュームピンに貼った場合と同様ですが、効果の程度はそれに及ばず、少し粗さが取れて緻密さが増して聴きやすくなる程度です。

4. まとめ

FAL C90EXW を駆動する Langevin 6V6pp アンプのヴォリュームへの **VRA-7** の適用は、変則的な貼り方ですが、大きな効果を認めました。スピーカーケーブルのケーブルコネクタに **VRA-7** を貼った場合の効果は、それに及びませんでした。

以上